

ふるさと再発見

― 島原城の石垣「算木積み」の謎 ―

平成24年6月に崩落した島原城本丸西側の石垣は復旧工事に併せて発掘調査を行いました。

崩落した石垣の南側に直交する石垣の築石から、本来隅角部分にあるはずの「算木積み」の部分が見つかりました。

「算木積み」とは石垣の隅角部分の積み方で、直方体の石材の長辺と短辺を交互に組み合わせる積み方で、計算や占いに

用いる算木の形に似ていることから、この名が付けられたと言われています。

戦国時代末期の城郭の石積技術の発達により進化し、当初は横長の自然石を用い、形も長さも揃いで、石材を交互に置かない場合もありましたが、島原城が作られた元和の時期は築城技術が最も高まった時期で、綺麗な長方形に整えられた石材が交互に積まれています。

「算木積み」があるということとは、この部分がもとも隅角部分であった証拠ですが、現在まで知られている絵図では、この部分が隅角となるものは見つかっておらず、いつ頃、なぜこのような状態になったのか分かっていません。

今後の発掘調査や絵図の調査で「算木積み」の謎が解明されることが期待されています。



算木積みが施された石垣

クローズアップ Close Up!

島原市交通安全母の会連合会



下校時の声掛け(第三小学校)

今回、紹介するのは、女性の立場から交通安全活動を推進している「島原市交通安全母の会連合会」の皆さんです。

この会は、昭和55年に発足し、市内小中学校の育友会および地区の婦人会の約3900人で構成され、児童・生徒の登下校の見守り活動や高齢者一人暮らし世帯訪問、親子自転車教室などさまざまな活動を通して、安全安心なまちづくりに取り組んでいます。

会員の皆さんに話を伺うと「活動

を通して、子どもたちと挨拶を交わし、私たちも元気をもらっている。そんな子どもたちが安全に暮らせるよう頑張りたい」、「子どもたちを事故から守るために、私たちができることから取り組んでいきたい」と話してくれました。

7月1日、こうした長年の取り組みが高く評価され、内閣総理大臣表彰(安全功労者)を受賞し、翌2日、古川市長に報告しました。より安全安心なまちづくりのため、今後も「母の目線」を生かした取り組みが期待されています。



内閣総理大臣表彰受賞を古川市長へ報告